



令和3年度 7月号 令和3年6月30日

上原だより

渋谷区立上原小学校
校長 河口 尚志

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/ueharae>

「モノ」の準備 「心」の準備

～水泳授業で大切にすること～

副校長 田代 仁史

「マスク着用が当たり前」の日々が続きます。今ではマスクを外した瞬間、口元が解放的過ぎて違和感を覚える方もいらっしゃるのではないのでしょうか。マスクがカバーしてくれるから、田代は自分の歯が欠けていることを忘れていました。外出することも減る中で「他人の目を気にする心に縛られなければ、使わずに済むお金や時間や気持ちがあるものだなあ」と、あらためて考えたのもコロナ禍の出来事の一つです。制約により仕事ができない苦しみにあえぐたくさんの方々のニュースと共に、新しい感染防止対策商品が次々と生み出されてはインターネットの画面を賑わせています。

そんなコロナ禍の行方に人々が気を揉む毎日ですが、宇宙の摂理は変わることなく地球は周り、自然界は正直に四季の変化を告げています。日差しが強くなりました。夏の訪れです。

上原小では6月21日(月)の全校朝会(Teamsによるオンライン)でプール開きを行い、24日(木)から水泳授業を始めました。今年の水泳授業は密を避けるために1学級ずつ行います。子供たちが間隔を空けて座りやすくするため、プールサイドに耐水性絵の具で着座位置のマークを付けました。シャワーを浴びる場所も一定の間隔を保って進むようにマーキングしました。子供たちはマスクをしてプールサイドに上がり、タオルを掛けるバーにマスク入りのポリ袋も掛けてからシャワーを浴びます。授業は、規定値(0.4mg/L～1.0mg/L)を維持した塩素濃度のプール水で行い、終了後シャワーを浴びたら、またマスクをして教室に戻ります。これは感染防止のための、いわば「モノ」の準備です。



低学年の授業風景

では、「心」の準備はどうすればよいのでしょうか。

多くの子供たちが「プール」と聞くとワクワクします。暑い日は、水の中に入ることで体が心地よい体験となります。子供たちの心が浮き足立ってくることは想像に難くありません。その「心」の状態を考慮した上で、良い意味での緊張感をもたせ、整然とした行動をとらせて安全を維持するのが、教師の役目です。これはコロナ禍に限らず、水泳指導で万が一にも溺れることを防ぐための重要事項ですが、整然とした行動の徹底はシャワーを浴びたりプールサイドに座ったりするときに密を避けることにもつながります。そのため私たち教師は、子供たちに「安全」を水難防止と感染防止の両面から語り、子供たちの心を育てることで安全な水泳指導を行っていきます。

子供たちの発想と動きを想定した「モノ」と「心」の準備で感染防止対策に努めながら、夏の日差しを味方につけて屋外プールでの水泳学習を進めます。今月も、皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



過日校長から保護者の皆様に PSS (PTA サポートスタッフ) のご協力をお願いしたところ、多くの保護者の皆様からご協力いただけるとの声を寄せていただきました。「1年生入学直後の下校付き添い・見守り」「英語の授業の支援」「金管楽器の指導」など、さまざまな場面で子供たちの教育を力強くご支援いただいていることに、心から感謝申し上げます。「水泳授業の見守り」については50名を超える方々に申し出ていただきました。密を避けるため1学級ずつ行う水泳授業が実現できたのは、PSSの皆様のご支援の賜物です。ありがとうございます。